

維持していくことを目標とした。

目標設定については、短期目標と長期目標設定の線引きが難しかった。

●面接④

2009年3月 東北地方 2時間

[内容]行動計画書に基づく行動を確認し、実感検証、評価アンケートを実施。

行動計画の実施状況を確認したところ、最近が多忙で会ってはいないが、電話・メールで連絡を取り合っている。

アンケートでは、C氏のコメントとして「普段、中々会話出来ない様な内容の話を初めて試みて、改めてパートナーとの今後について、考える機会になりました」と語った。

[全体を通してのCMの感想]

* 葉害エイズのHIV陽性者がプログラムに参加し、自身のライフストーリーを語ることにより、今まで聞くことの出来なかった性行動への思いを聞くことができた。

* 今回のケースでは感染事実を伝えておかなければ交際できないという切迫感(プレッシャー)が感じられ、自分が主体として交際を開始するというよりも、パートナー次第の受身の姿勢が見受けられた。

* このケースではCLが感じた目標達成感が、継続していけるかどうかは検証できないが、パートナーとの関係性が大きな要因であることが推察される。

* 葉害エイズHIV陽性者にはこのプログラムが単に性行動変容だけでなく、ライフスタイルを考えていく上で、有効であると感じられた。

E. 考察

* 2例ではあるが、このプログラムに参加したCLは目標達成実感をもつことができた。

* このプログラムが、HIV陽性者のライフストーリーを聞き取ることによって、単に性行動にスポットを当てた

介入方法ではなく、CLのライフスタイルの中に行動変容を起こす要因を探り出し、介入できることが示唆された。

* このプログラムは、1回目にライフストーリーの聞き取りを充分に行うため、CMがCLの背景や人物像を把握することができた。そのことは、CLとCM双方の信頼関係の構築や、2回目以降のリスクアセスメントやニーズアセスメントといったプログラムの進行に有意に働いた。

* さらに、このプログラムはCLとCMが4回のセッションで終了することが決まっているため、CLもプログラムの進行において、ふり返りや目標設定等の意識付けがしやすく、サービスの継続につながった。また、CLがこのプログラムに参加するというモチベーションがサービスの継続に影響することが示唆された。

* CLにとって、HIVが性感染症であるため、性行動について考えさせられる場面は避けられないが、日常で性行動について語る機会がほとんどないため、このプログラムが性行動について語り、ふり返る良い機会として、CLのプログラム評価は好評であった。

* すでにHIV感染の事実を受け止めている陽性者に対する目標設定では、短期間での予防行動の知識習得やスキルを学ぶことよりも、HIV陽性者として生きていくためのライフスタイルに関わる目標設定となった。

* サービス提供時には、日時、場所等に加え、CLの体調、タイミング等にも配慮する必要があった。また、CLが理解しやすい言葉を使用することや、プログラムを一言で表現できるキーワードが必要であることが示唆された。

* CMに求められる要因として、CMが経験していない性行動の知識と受容が重要であることが示唆された。

* このプログラムでは、SVと他のCMの事例検討により、CM個人では対応できない問題が明確化でき、適切なサービスを提供できた。このことから、SVや他のCMによるスーパーバイズが重要であることが示唆

された。

*インテーク研修は、参加したCIが、サービスの内容を理解したことで、HIV陽性者のリソース先として、このサービスをCLに紹介することになった。このことから、インテーク研修の重要性が示唆されたが、CM養成希望にはならなかった。

*プログラムの更なる充実のために、事例検討、CL・CIからの評価も踏まえたプログラムの変更も示唆された。

F. 今後の課題

今後の展開においては、CI、CM、SVのスキルの向上、役割分担、人材養成、運営予算の獲得、広報を含めた運営システムの明確化を図り、より現実に即したプログラムの構築が課題である。

G. 学会発表

藤原良次、早坂典生、橋本謙、長谷川博史、矢島嵩、山縣真矢、間島孝子、山田富秋、本郷正武、大北全俊、木原正博、木原雅子、「ケースマネジメントスキルを使ったHIV陽性者のための性行動変容支援サービスに関する研究」第21回日本エイズ学会学術集会、2007年11月、広島。

・藤原良次、早坂典生、橋本謙、長谷川博史、矢島嵩、山縣真矢、間島孝子、山田富秋、本郷正武、大北全俊、木原正博、木原雅子、「ケースマネジメントスキルを使ったHIV陽性者のための性行動変容支援サービスに関する研究」第22回日本エイズ学会学術集会、2008年11月、大阪。

・山田富秋、本郷正武、「HIV陽性者におけるHIV/AIDSに対する否定的イメージ」—ライフストーリー・ナラティブから—第81回日本社会学会大会、2008年11月、仙台。

H. 参考資料

・HIV感染予防介入の実践方法論としての「プリベンション・ケースマネジメント(PCM)」の理解と導入に関する研究(分担研究者 藤原良次)

・ふれいす東京新陽性者PEER Group Meeting (PGM)実践マニュアル(特定非営利活動法人ふれいす東京)

・地域保健と社会的少数者(HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス 代表長谷川博史)

I. 添付資料

・インテーク研修フライヤー

・研修当日プログラム

・「性行動変容支援プログラム」研修会資料

・参加者アンケート用紙

・ホームページ用クライアントリクルートフライヤー

111. 研究成果の刊行に関する一覧表
(丸印は、別冊を添付するもの)

(1) 欧文原著

1. ●Homma T, Ono-Kihara M, Zamani S, Nishimura YH, Kobori E, Hidaka Y, Ravari SM, Kihara M. Demographic and behavioral characteristics of male sexually transmitted disease patients in Japan: A nationwide case-control study. *Sex Transm Dis* (2008) Oct 2. [Epub ahead of print]
2. ●Cong L, Ono-Kihara M, Xu G, Ma Q, Pan X, Zhang D, Kihara M. The characterisation of sexual behaviour in Chinese male university students who have sex with other men: a cross-sectional study. *BMC Public Health*. (2008) Jul 22;8:250.
3. ●Zamani S, Vazirian M, Nassirimanesh B, Razzaghi EM, Ono-Kihara M, Ravari SM, Gouya MM, Kihara M. Needle and syringe sharing practice among injecting drug users in Tehran: A comparison of two neighbourhoods, one with and one without a needle and syringe program. *AIDS Behav* (2008) doi 10.1007/s10461-008-9404-2
4. ●Ma Q, Ono-Kihara M, Cong L, Xu G, Pan X, Zamani S, Ravari SM, Kihara M. Unintended pregnancy and its risk factors among university students in eastern China. *Contraception* (2008) 77: 108-13.
5. ●Nishimura YH, Ono-Kihara M, Mohith JC, Ngmansun R, Homma T, Diclemente RJ, Lang DL, Kihara M. Sexual behaviors and their correlates among young people in Mauritius: a cross-sectional study. *BMC Int Health Hum Rights*. (2007) Oct 5;7:8. doi:10.1186/1472-698X-7-8
6. ●Zamani S, Gouya MM, Ono-Kihara M, Ichikawa S, Kihara M. Shared drug injection inside prison as a potent associated factor for acquisition of HIV infection: implication for harm reduction interventions in correctional settings. *日本エイズ学会誌* (2007) 9巻3号 217-22
7. ●Zamani S, Ichikawa S, Nassirimanesh B, Vazirian M, Ichikawa K, Gouya MM, Afshar P, Ono-Kihara M, Ravari SM, Kihara M. Prevalence and correlates of hepatitis C virus infection among injecting drug users in Tehran. *Int J Drug Policy*. (2007) Oct;18(5):359-63.
8. ●Kobori E, Visrutaratna S, Kada A, Wongchai S, Ono-Kihara M, Kihara M. Prevalence and correlates of sexual behaviors among Karen villagers in northern Thailand. *AIDS Behav*. (2007) Jul;11(4):611-8.
9. ●Ma Q, Ono-Kihara M, Cong L, Xu G, Zamani S, Ravari S, Kihara M. Sexual behavior and awareness of Chinese university students in transition with implied risk of sexually transmitted diseases and HIV infection: a cross-sectional study. *BMC Public Health* (2006) 6:232, doi:10.1186/1471-2458-6-232
10. ●Hidaka Y, Ichikawa S, Koyano J, Urao M, Yasuo T, Kimura H, Ono-Kihara M, Kihara M. Substance use and sexual behaviors of Japanese men who have sex with men: a nationwide internet survey conducted in Japan. *BMC Public Health* (2006) 6:239, doi:10.1186/1471-2458-6-239.

11. ●Zamani S, Kihara M, Gouya MM, Vazirian M, Nassirimanesh B, Ono-Kihara M, Ravari SM, Safaie A, Ichikawa S. High prevalence of HIV infection associated with incarceration among community-based injecting drug users in Tehran, Iran. *J Acquir Immune Defic Syndr.* (2006) 42(3):342-6
12. ●Inoue Y, Yamazaki Y, Kihara M, Wakabayashi C, Seki Y, Ichikawa S. The intent and practice of condom use among HIV-positive men who have sex with men in Japan. *AIDS Patient Care STDS.* 2006 Nov;20(11):792-802

(2) 和文原著等

1. ●木原正博, Zamani S, 木原雅子. 日本のHIV流行の現状と国際的文脈. *感染・炎症・免疫* (2008) 38 : 334-336
2. ●木原雅子, 小堀栄子, 西村由実子, 森重裕子, 木原正博. 性感染症の疫学—わが国の国際的特徴について. *日本臨床* (2008) 67 : 16-22
3. 木原雅子, 木原正博. 若者を襲う性感染症. *公明* (2008) 1月号: 46-51
4. ●木原雅子, 木原彩. 世界と日本におけるHIV流行の最新状況とWYSH教育の現在. (2008) *健* 37: 22-26
5. ●木原雅子, シャラザド・M・ラヴァリ. 思春期の性行動と性感染症. (2008) *総合診療* 57: 2735-37
6. ●木原雅子. 中学・高校生の性行動の現状と予防対策—その実態・社会要因とWYSH教育の視点. (2008) *小児科診療* 71:1369-1374
7. ●木原雅子. 初等教育におけるWYSH教育の可能性について. *初等教育資料* (文部科学省教育課程課/幼児教育課編) 823(7):72-75, 2007.
8. 小堀栄子, 前田祐子, スラシン V, シリポー W, 木原雅子, 木原正博. HIVの流行する都市におけるマイノリティの生活と健康—タイ北部におけるミャンマー人(シャン族) 出稼ぎ労働者の社会的脆弱性. *日本=性研究会議会報* (2007) 19(1). 16-23
9. ●木原雅子, 木原正博. わが国のHIV流行と若者、及びWYSH教育の最近の展開について. *健* (2007) 36(9):23-27
10. ●吉嶺敏子, 木原雅子, 市川誠一, 木原正博. 性行動に関する質問票の信頼性に関する研究. *日本エイズ学会誌* (2006) 8 :115-22
11. 木原正博, 木原雅子. 迫る HIV 流行拡大と対応の幕開け—緊迫するレース展開. (2006) *健* 35 :24-28
12. ●木原正博, 木原雅子, サマン・ザマニ. HIV感染症の動向と今後の予防対策. *診断と治療* (2006)94 : 18-23.
13. ●木原正博, 木原雅子. わが国のHIV流行の文脈と展望. *治療* (2006) 88 :2836-22838
14. ●木原雅子, ラヴァリ SM. 思春期の性行動と性感染症—問題の構造と展望. (2006) *小児科* 47: 1320-1326.
15. ●木原雅子. 性行動—その実態・社会要因とWYSH教育の戦略. (2006) *学校保健研究* 47 :501-509
16. ●木原正博, Zamani S, 木原雅子. 社会疫学的観点からみたエイズ予防対策. (2006) *病原微生物検出情報* 27: 117-118

17. ●木原正博、木原雅子. 迫るHIV流行拡大の危険と対応の幕開け. 健 (2006) 35(9): 24-27

(3) 著書・ガイドライン等

1. 木原正博、木原雅子. 世界と日本におけるエイズ流行と対応の変遷—The epidemic's future is still unknown. 静かに迫り来るHIV—神戸からの報告(エイズ予防サポートネット神戸編)、p141-p169、エピック社、2008
2. 木原雅子、木原正博(監訳). 医学的研究のための多変量解析—一般回帰モデルからマルチレベル解析まで. メディカルサイエンスインターナショナル、東京、2008
3. 木原雅子、木原正博(監訳). WHOの標準疫学第2版、三煌社、東京、2008.
4. ●木原正博、木原雅子. エイズの世界的流行とその背景及び地球的対応の現状. 感染症と生体防御(岸本忠三、岩本愛吉、河原和夫編)、p129-p146、財団法人放送大学教育振興会、2008
5. ●木原正博、木原雅子. 日本におけるエイズ流行とその背景及び対応の現状. 感染症と生体防御(岸本忠三、岩本愛吉、河原和夫編)、p147-p164、財団法人放送大学教育振興会、2008
6. ●木原正博、木原雅子. HIV感染症の疫学. 性感染症STD(熊澤浄一、田中正利編)、p245-p258、南山堂、2008
7. ●木原雅子、木原正博. 若者の性行動. 性感染症STD(熊澤浄一、田中正利編)、p87-p98、南山堂、2008
8. 木原雅子、木原正博監訳. ヘルスリサーチのための質的研究方法(Rice PL and Ezzy D 著). 三煌社、東京、2006.
9. Kihara M, Ono-Kihara M, Zamani S eds. Selected guidelines for HIV prevention and testing using rapid tests-for local government initiatives. Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan, 2006
10. 木原正博、木原雅子他. 地方自治体のエイズ啓発プログラムのためのガイドライン. HIV感染症の動向と予防モデルの開発普及に関する社会疫学的研究班、2006
11. 木原雅子、木原正博他. 地方自治体における青少年エイズ対策/教育ガイドライン—若者の性行動の現状とWYSHプロジェクトの経験. HIV感染症の動向と予防モデルの開発普及に関する社会疫学的研究班、2006
12. 木原雅子. 10代の性行動と日本社会. ミネルヴァ書房、京都、2006
13. 木原雅子. エイズの疫学(Q5). HIV Q&A(岡慎一編)、pp24-26、医薬ジャーナル社、東京、2006

IV 研究成果の刊行物・別冊(抜粋)

(II. 研究成果の刊行に関する一覧表で丸印をしたもののみ収載)

Demographic and behavioral characteristics of male sexually transmitted disease patients in Japan: a nationwide case-control study.

Takayuki Homma	M.P.H.	Department of Drug Management and Policy, Kanazawa University Faculty of Pharmacy, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences. Kakuma-machi, Kanazawa city, Ishikawa 920-1192, JAPAN Telephone & Fax : +81 76 264 6286 E-mail: honma-kyt@umin.ac.jp
Masako Ono-Kihara (Correspondence author for publication)	Ph.D	Department of Socio-epidemiology. Kyoto university school of public health Konoe-cho, Kyoto city, Kyoto. 920-1192, JAPAN Telephone: +81 75 753 4350 Fax: +81 75 753 4359 E-mail: okmasako@pbh.med.kyoto-u.ac.jp
Saman Zamani	M.D., PhD	Department of Socio-epidemiology. Kyoto university school of public health
Yumiko H Nishimura	Ph.D	Department of Socio-epidemiology. Kyoto university school of public health and Japanese Foundation for AIDS Prevention.
Eiko Kobori	Ph.D	Department of Socio-epidemiology. Kyoto university school of public health and Japanese Foundation for AIDS Prevention.
Yasuharu Hidaka	Ph.D	Kansai university of Nursing and Health Sciences
Shahrzad Mortazavi Ravari	DDS, MSc.	Department of Socio-epidemiology. Kyoto university school of public health and Japanese Foundation for AIDS Prevention.
Masahiro Kihara	M.D., PhD	Department of Socio-epidemiology. Kyoto university school of public health

*Mr.Homma and Dr.Ono-Kihara contributed equally to this work.

Word counts for the summary: 29 words

Word counts for the abstract: 198 words

Word counts for the text: 3190 words (except reference)

Number of figures and tables: 3 tables and no figure.

Acknowledgements: This research was supported by a grant-in-aid for AIDS research from the Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan. Dr. Yumiko H Nishimura and Dr. Shahrzad Mortazavi. Ravari were supported by a research resident program of the Japanese

Foundation for AIDS Prevention. Dr. Eiko Kobori was supported by a research fellow program of the Japanese Foundation for AIDS Prevention. The survey of the general population in 1999 was conducted by the Central Research Service Inc., Tokyo. Hidehito Chida was the study director. The authors thank Dr. Mikio Koroku, Dr. Takehiro Miyagishi, Dr. Hiroshi Yoshio, Dr. Shoichi Kimura, Dr. Shigeaki Sato, Dr. Shiro Mitsukawa, Dr. Masanori Saito, Dr. Masaya Kurosawa, Dr. Kou Majima, Dr. Hiroyuki Kojima, Dr. Masayuki Sawamura, Dr. Yasuhiko Ogami, Dr. Jirou Maruyama, Dr. Kazuhisa Ohsato, Dr. Urabe, Dr. Kikuo Kaimi, Dr. Masahiro Yamamoto, Dr. Hiroshi Yamanaka, Dr. Hiromi Tanaka, Dr. Toru Sumii, and Dr. Taiji Kitano for conducting the STD survey at their clinic.

Short summary: The nationwide case-control study in Japan found that male STD patients are highly educated, and that STI risks exist universally across various types of sexual practices and sexual partnerships.

ABSTRACT

Backgrounds: Sexually transmitted infections (STIs) increased rapidly in Japan during the 1990s. **Methods:** To determine the epidemiological characteristics of STI patients, male cases (n=765) from 21 clinics across Japan and controls from the general population (n=1167), both aged 18-59 years, were compared using two data sets of nationwide sexual behavior surveys conducted in 1999. **Results:** Male STI patients were more likely to be under 40 years of age (OR=3.94, 95% CI: 2.17, 7.15), unmarried (OR=2.65, 95%CI: 1.80, 3.91), and at least college/university educated (OR=2.03, 95% CI: 1.45, 2.83). They were also more likely to have had multiple partnerships in the previous year (OR=3.33, 95% CI: 2.20, 5.05 for 2-3 partners, OR=6.29, 95% CI: 3.81, 10.37 for ≥ 4 partners), unprotected vaginal sex with regular partners (OR=2.70, 95% CI: 1.75, 4.17), unprotected vaginal and/or oral sex with casual partners (OR=2.14, 95% CI: 1.40, 3.26), and unprotected vaginal (OR=2.64, 95% CI: 1.46, 4.80) and oral sex with paid partners (OR=4.72, 95% CI: 3.04, 7.32) in the previous year. **Conclusions:** These results suggest that male STI patients in Japan are highly educated and have a diverse occupational background, and that STI risks exist universally for various types of sex and sexual partnerships.

Keywords : Keywords: case-control study, clinics, patients, male, sexually transmitted infection.

INTRODUCTION

According to the sexually transmitted infection (STI) surveillance in Japan, STIs, especially non-viral STIs, began to increase rapidly in the mid 1990s. The increase between 1995 and 1998 was over 30 percent for chlamydial and gonococcal infections in both genders (1-2). Although surveillance information was interrupted due to a nationwide reorganization of sentinel sites in 1999, an increase in these STIs continued thereafter, reaching a peak in 2002 (3). Currently, patients less than 30 years old account for 47% and 68% of all male and female cases, respectively, and genital chlamydia and gonorrhea are the most dominant STIs among both genders. STI surveillance provides useful information regarding trends in STIs. However, since demographic variables in the surveillance are limited only to age, gender and residential area, questions remain about what types of sexual behaviors in what subpopulations contributed to the recent increase in STIs in Japan. Such information is vital for developing effective STI/HIV prevention efforts (4-5). The present study was conducted to obtain insight into this research question.

MATERIALS AND METHODS

Study design

This was a case-control study in which cases and controls were selected from two data sets of sexual behavior surveys conducted in 1999 in Japan, one from a sample of STI patients and the other from a probability sample of the general population. We were able to

combine these data sets since both were designed by the same authors (MOK, MK, TH) who used the same set of survey questions, other than those specific to each study.

Sexual behavior survey of the general population (6). This survey was conducted during June-July of 1999. A sample of 5000 individuals, aged 18-59 years, was selected from the general population using a 2-stage random sampling procedure. Briefly, the entire country was divided into 11 regions. Each region was further divided into 5 population density bands, yielding 57 strata. A total of 5000 samples were then allocated for each stratum proportionally to the population size. Within each stratum, sampling wards from which 9-22 samples were drawn systematically from residents' basic register or electoral register were selected randomly using the list of wards prepared for the census survey. Each subject was visited by a trained staff 4 times at most when absent and asked to complete an anonymous self-administered questionnaire. A total of 3562 subjects (1762 males, 1800 females) were sampled without replacement, yielding a final response rate of 71.2 percent.

Nationwide STI patient survey. This survey was conducted during July-September of 1999. STI patients were recruited from 21 private STI clinics in 7 large cities (Sapporo, Sendai, Tokyo, Osaka, Hiroshima, and Fukuoka) within 6 districts (Hokkaido, Tohoku, Kanto, Kansai, Chugoku, and Kyushu) of Japan. These clinics were recruited through consultation with local STI physicians' associations and chosen based on their proximity to the largest entertainment district of each city. Subjects were selected from patients who visited the clinic during the

study period if they were diagnosed with STIs or typical STI symptoms. STIs included chlamydial infection, gonorrhea, syphilis, non-chlamydial non-gonococcal urethritis, genital herpes, condyloma acuminatum, chancroid, phthirus pubis, and typical STI syndrome included unusual genital discharge (flow), sores, warts, burning with urination, and redness or itching around the penis. Eligible participants were consecutively recruited and asked to complete an anonymous self-administered questionnaire in a waiting room. A total of 1119 subjects participated in the survey, yielding a final response rate of 84.9 percent (791 males, 304 females, 24 unknown gender). Because the survey was anonymous, not all patients responded and information from the clinic could not be linked to the survey, the distribution of the types of STIs or typical STI symptoms among participants was not determined.

Integration of the data sets

The data sets of the two surveys were combined for male subjects aged 18-59 years who lived within the 6 districts previously described and who had sexual intercourse during the previous year. The merged data set included information about age, gender, occupation, educational background, marital status, HIV/STI-related knowledge (17 items), age at first sex, number of sexual partners in the previous year, types of sexual partners (regular, casual, or paid) in the previous year, types of sex (vaginal, oral, or anal), and condom use with each type of sexual partner in the previous year or at the last sex. Female subjects were also excluded to avoid potential bias, given that 60 percent of them were recruited from a single

clinic.

Sample characteristics

Compared to the 2000 census data (7), the control group was slightly older. The proportion of subjects in their 20s, 30s, 40s and 50s was 17, 23, 29 and 30 percent, respectively, for controls and 26, 24, 24 and 27 percent, respectively, for the male census population. Controls were less unmarried than census population (20 percent vs. 39 percent) and were slightly more educated (45 percent vs. 34 percent for at least a college/university education). Occupational pattern was similar between the populations. Regarding STI cases, only age was available for comparison with the 1999 national sentinel STI surveillance data (8). STI cases in this study were slightly older than the STI surveillance population where the proportion of subjects in their 20s, 30s, 40s and 50s was 44, 37, 14 and 5 percent, respectively, for cases, while they were 51, 31, 13 and 5 percent, respectively, for the STI surveillance population.

Ethical issues

In both surveys, verbal informed consent was obtained from the participants. Then they were asked to fill out the questionnaire and return it in a sealed envelope, in person or by mail. This research study was approved by the Committee for Research on Human Subjects at Kyoto University in Japan.

Statistical analysis

All statistical analyses were performed using SPSS for Windows (version 12.01; SPSS Inc., Chicago, Illinois, USA). Bivariate analyses were performed to determine the association between STI infection and demographic and behavioral variables. Logistic regression was performed to calculate adjusted odds ratios (AOR) and 95 percent confidence intervals (CI). Answers to HIV/STI knowledge questions were transformed into scores by giving 1 for a correct answer and 0 for an incorrect answer. Behavioral variables were combined to create variables that coded the presence (=1) or absence (=0) of unprotected sex for each type of sex with each type of partner. These variables were compulsorily entered into a multivariate model, together with age at first sex, number of sexual partners in the previous year, and demographic variables except for the variables of behaviors practiced by too few participants and those strongly interrelated. All statistical tests were two-tailed and results were considered significant when $p < 0.05$.

RESULTS

There were 765 cases and 1167 controls. Those who had STI in the previous year ($n=16$) were excluded from the control group.

Table 1 compares the demographic characteristics and HIV/STI-related knowledge of the groups. STI patients were much younger than the controls (average age 31.8 years vs. 41.6 years, $p < 0.001$). There were less self-employed and more unemployed individuals among the cases compared to the controls. Although statistically significant ($p < 0.001$),

occupational differences between the groups were small. There was a significant difference in marital status. While 20 percent of the controls were unmarried, it was 66 percent among STI patients ($p < 0.001$). STI patients were significantly more educated than the controls, with 65 percent of cases having at least a college/university education compared to 45 percent of the controls ($p < 0.001$). Average scores on HIV/STI-related knowledge were both significantly greater in STI patients than in the controls ($p < 0.001$).

STI patients experienced first sex approximately 2 years earlier than the controls and there was a large difference in the number of sexual partners in the previous year (Table 2). Compared to only 6.1 percent of the controls, 53 percent of STI patients reported having at least 4 sexual partners. More than 50 percent of STI patients reported having casual or paid partners in the previous year, compared to only around 10 percent among the controls. Regarding the prevalence of unprotected sex, the largest differences between the groups were observed in vaginal and oral sex with casual or paid partners. It was 26-49 percent among STI patients, but only 6.3 percent, at most, among the controls. There were slightly but significantly more STI patients who experienced unprotected oral sex with regular partners in the previous year than the controls. Although unprotected anal intercourse with casual or paid partners was also significantly more common among STI patients than the controls, it was only around 2 percent even among STI patients. Proportion of men who had sex with men was 3.2 % among STI patients in the previous year, while it was 1.2% among general

population in lifetime.

Multivariate analysis was performed to evaluate the independent association of demographic and behavioral variables with STI infection (Table 3). Age, occupation, number of sexual partners in the previous year, and district variables were entered collectively into the model, together with other demographic and behavioral variables that were entered as dichotomous variables. HIV/STI-related knowledge scores were excluded from the analysis. Unprotected anal sex, which was too few, was also excluded from the analysis as well as the sex between men since time frame for question was different between the studies. Variables representing unprotected oral sex and vaginal sex with casual partners were combined to create a single dichotomous variable that represents the presence or absence of unprotected oral and/or vaginal sex, since these variables were closely correlated ($r=0.802$).

Results of the multivariate analysis showed that STI patients were more likely to be under 40 year-old, unmarried, have at least a college/university education, while occupational categories showed little association. STI patients were more likely to have multiple partners, unprotected vaginal sex with regular partners, unprotected oral and/or vaginal sex with casual partners, and unprotected oral and vaginal sex with paid partners.

As indicated in Table 3, magnitude of association for some variables was greatly reduced in the multivariate analysis. Association showed largest recovery when both age and

marital status were removed from the model, suggesting that the results of the bivariate analyses were largely confounded by these variables. On the other hand, unprotected vaginal sex with regular partners, which was not significant in the bivariate analysis, became significant in the multivariate analysis. However, it became insignificant when all the demographic variables and the variable for the number of partners were removed from the model, suggesting that the effect of this variable was suppressed by a complex interaction of multiple variables.

DISCUSSION

As the first nationwide case-control study of STI infection using a probability sample for controls, this study characterized the demographic and behavioral profiles of Japanese STI patients in comparison to controls.

Compared to STI clinic-based case-control studies, case-control studies that used representative samples for cases and/or controls are limited in number. A British study used probability samples of the British National Surveys of Sexual Attitudes and Lifestyles (NATSAL) conducted in 1990 (n=13,765) (9) and 2000 (n=11,161) (10), in which cases were those who had STIs in the previous 5 years and controls were those who did not. In Slovenia, a national general population survey (n=1752) was conducted in 1999-2001 using the same design as the NATSAL, in which subjects who had STIs in their lifetime were compared to those who did not (11). In China, subjects with chlamydial infections diagnosed with urine

tests were compared to those uninfected among national probability samples (n=3426) in 1999-2000 (12). The National Health and Nutrition Examination Survey (NHANES) is a similar large-scale representative survey in the US using laboratory tests to determine STIs (13). It is less pertinent here, however, because published data to date has not included related analysis. Finally, case-control studies with cases and controls sampled from separate populations, as in this study, were conducted in the US and England. Gonorrhea cases (n=103) from the general Seattle population were compared to controls obtained through random digit dialing in 1995 (n=376) (14). In England, patients (n=20,516) from two STI clinics sampled during 1995-1996 were compared to the 1990 NATSAL population samples (15).

Multivariate analysis indicated that male STI patients were more likely to be under 40 year-old, unmarried, and have at least a college/university education, while occupation was not a significant predictor. Population-based case-control studies have consistently found that male STI patients are concentrated in younger age groups. Although the risk of STIs appeared to increase with age in the Slovenia study, it most likely reflected a lifetime history of STIs that was actually measured. The association of marital status and occupation with STI history was assessed in the NATSAL studies. As in this study, being unmarried was significantly associated with a greater STI risk among the 1990 NATSAL population, but not among the 2000 population.

Low socioeconomic status is a well established risk factor for STIs (16). Results of the China and Seattle studies support this association (12,14). However, such findings are not universal. Non-manual social class was found to be significantly more at risk for STIs among the 1990 NATSAL samples (9) and those with higher education were at increased STI risk in our study. Our findings may reflect the possibility that STI patients who actively sought medical care had higher education than those who did not. However, a recent cohort study showed that the general health practice index showed little association with educational background among urban middle-aged Japanese men (17).

The present study showed that STI patients were more likely to have multiple sexual partnerships, have unprotected vaginal sex with regular partners, unprotected vaginal and/or oral sex with casual partners, and unprotected vaginal or oral sex with paid partners.

Multiple sexual partnerships and sex with paid partners are well established risk factors (18) and consistently identified by population-based studies, except for the China and Seattle studies (12,14). In contrast, unprotected vaginal sex with regular partners was unexpected as a risk factor, since such an association was shown only in the China study (12). Two recent case series studies in Japan support this association. One study reported that STI patients were estimated to have been infected equally from regular, casual and paid partners (19), while another study reported that 48 percent of male gonococcal or non-gonococcal urethritis patients were estimated to have been infected from regular partners (20). It may be

that STI risk now exists even among regular partnership in Japan. Our finding was unlikely confounded with recurrent infections within regular partnerships, since similar findings were detected among new STI patients, as well as among those who experienced multiple STIs.

Although it has been well established that STIs, especially non-viral STIs, can cause orogenital infections (21-23), our study is the first population-based study that identified unprotected oral sex with paid partners as a risk factor for STI infection. This result is consistent with a recent clinical finding in Japan, where approximately half of the male gonorrhea patients appear to have been infected through oral sex with paid partners (19). This may be related to the fact that the oral sex industry has proliferated throughout the 1990s in Japan (24). Since oral sex and the use of paid sex are prevalent among youth (25), it is possible that oral sex plays an important role in STI transmission among young people. This concern is shared by a recent clinical finding that among STI patients, over 80 percent practiced oral sex, and approximately 50 percent practiced both oral and vaginal sex with multiple types of sexual partners (26).

Results of the present study should be interpreted with caution. Although the case-control design utilized here is pertinent for rare diseases such as STIs, the analytic value may be compromised compared with cross-sectional studies with a representative sample in which cases are nested. In the present study, STI cases were sampled from private clinics. This is because over 90% of medical institutions are private and because almost all people are